

入場
無料



水田
畑
山林
河川
村域外
村域内(河川)
村域内(山林)
村域内(畑)
村域内(水田)
村域内(雑種)
村域内(雑草)
村域内(雑木)
村域内(雑草)
村域内(雑木)
村域内(雑草)
村域内(雑木)

白鳥村 検地帳
徳島県立博物館蔵

▲白鳥村 検地帳

第30回 資料紹介展

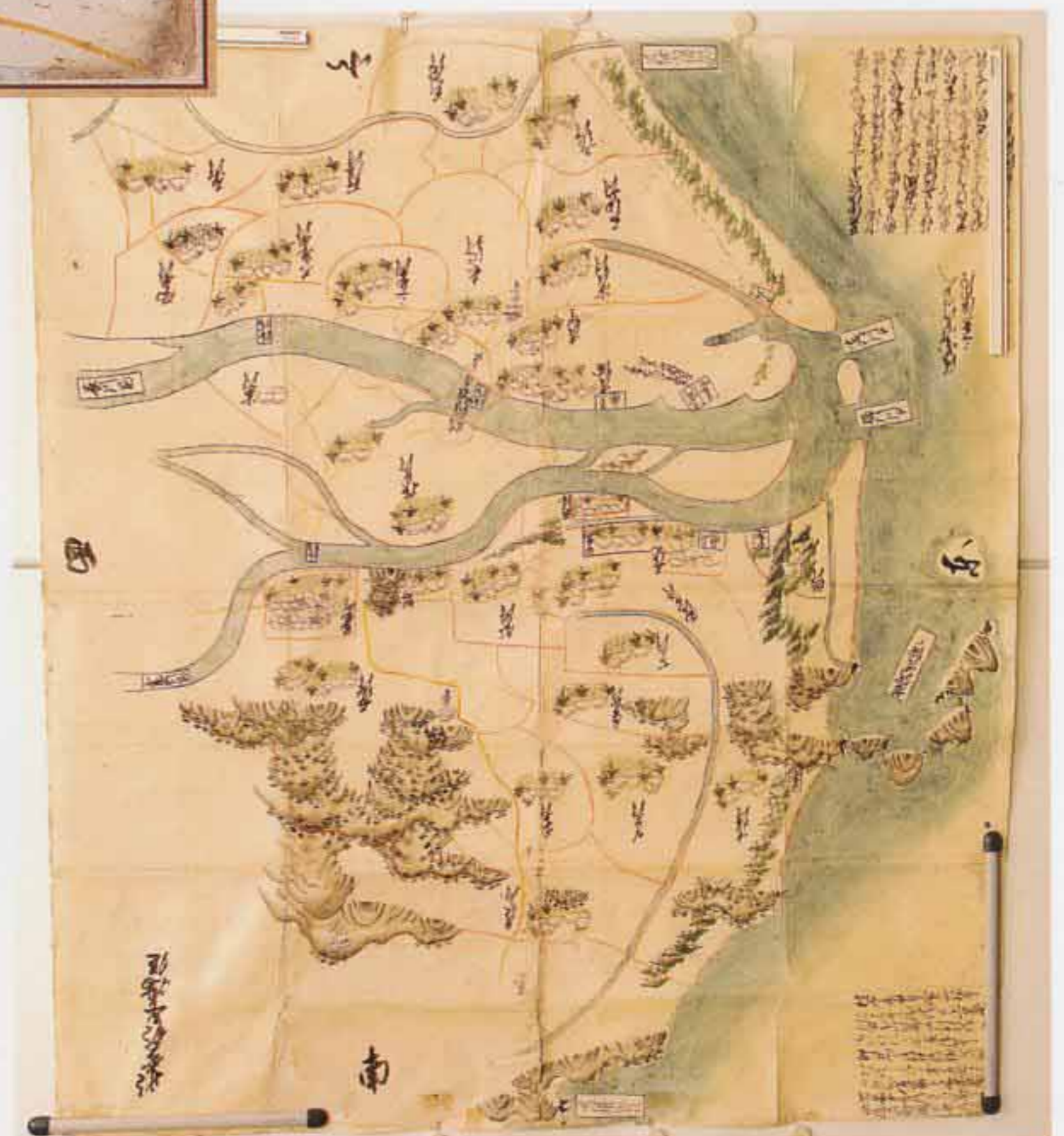
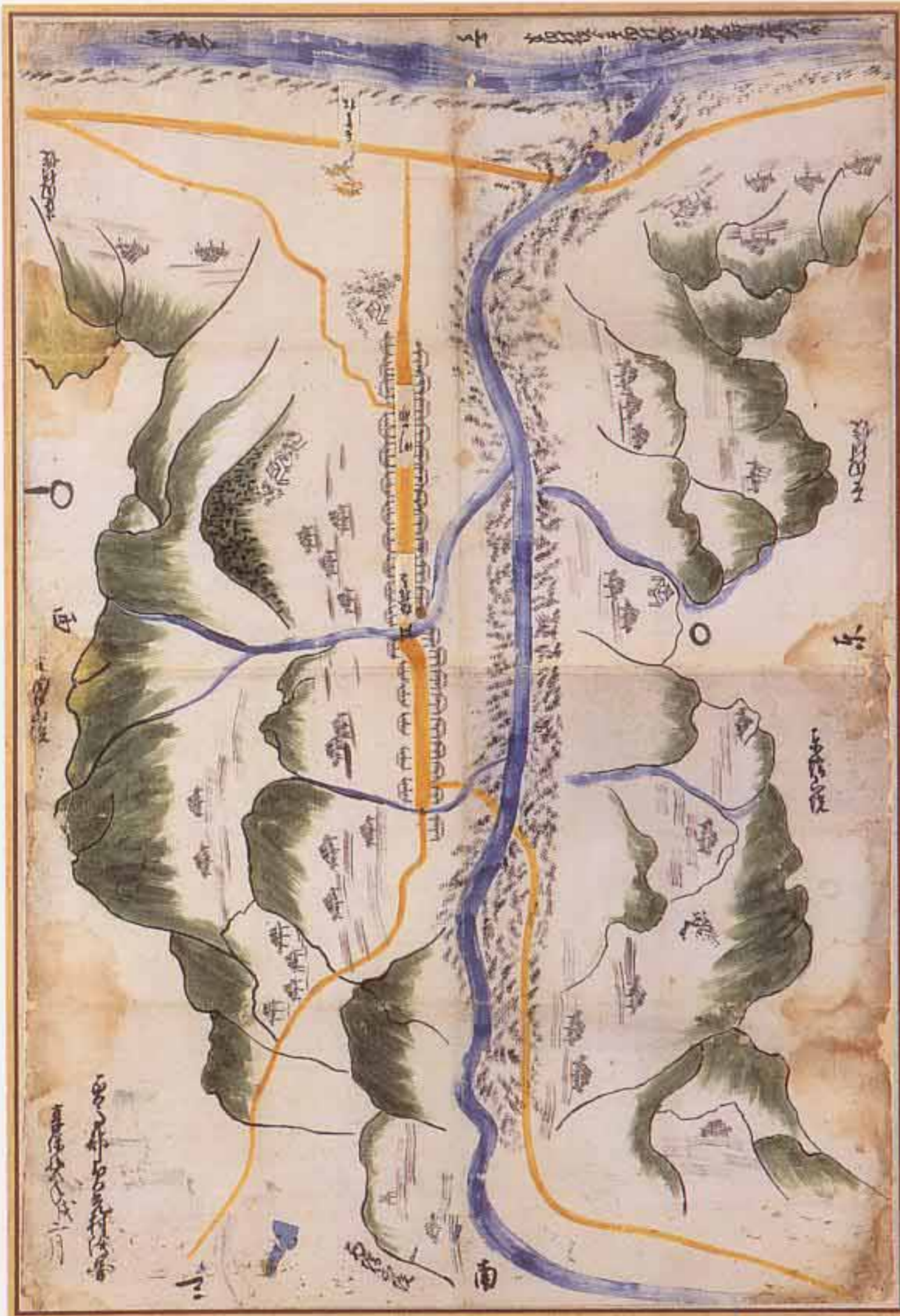
村 絵 図 の 世 界

■展示期間 平成18年1月31日(火)~4月23日(日)
 ■開館時間 午前9時30分~午後5時 ■場所 徳島県立文書館 2階展示室
 <展示解説> 文書館職員等による展示資料の解説 ■日時 平成18年3月5日(日)、4月2日(日) 午後2:00~3:30 ■場所 徳島県立文書館 講座室・展示室

分間絵図以前の絵図(見取図)

測量をして作成される前の絵図は、大体的方向や地勢を示した見取図であった。徳島ではこうした見取図の村絵図は多く残されていない。その後正確な分間絵図などが作成されるようになり、廃棄されたのだろうか。

◀「美馬郡貞光村絵図」つるぎ町所蔵 永井家文書 * 4
吉野川中流の右岸(南岸)、剣山への登山口として知られる貞光を描いた絵図である。吉野川支流貞光川の西岸に開け「うだつ」の町並みがある貞光の町筋の形成がわかる。享保15年(1730)の記述がある。



▶「那賀郡平島組村絵図」西崎家文書 * 5
那賀川の最下流域兩岸に広がる平島組の組村絵図を描いたもの。大京原村湯浅家を組頭庄屋としていた平島組は約25ヶ村を数える大きな組村であった。享保15年(1730)の記述がある。那賀川は「長川」と記され、河口は「中島川口」と「福村川口」に分かれていた。

ごあいさつ

文書館には県内各地から収集した約十数万点に及ぶ古文書類が收藏されています。その中で異彩を放っているのが美しい彩色を施された絵図の数々です。江戸時代に作成された絵図は、現代の科学的ですが実用一点張りの地図と異なり、美しく彩色された日本画のようです。丁寧に書き込まれた絵図は見えていてあきることがありません。畳十数畳敷きにもなる大きな「国絵図」や「城下絵図」から、緻密で詳細な「村絵図」まで種々様々です。

徳島藩における絵図の精度やレベルは非常に高いものであったといわれます。藩には測量方がおかれ、岡崎三蔵を中心に作成した実測地図は伊能忠敬の地図に匹敵するといわれています。

文書館ではこれまで「阿波国絵図」や「分間絵図」などを紹介してきましたが、今回は「村絵図」に焦点を当てました。

村絵図は、村人の生活を管理するために作成されたものですが、年貢の徴収や、土地の境界・用水・道など、村人の生活に直結する情報が満載されています。

特に、注目されるのは、村の土地の一筆ごとに色分けされた「検地絵図」です。実に細かく精密に仕上げられており、絵図に書き込まれた様々な情報の分析から、村の景観ばかりでなく、地方支配の特色といわれる「地方知行制」の仕組みなど武士の農民支配の実態がダイナミックに浮かび上がってきそうです。この展示が江戸時代徳島の歴史的世界の解明のきっかけになれば幸いです。この展示の開催にあたり、羽山久男氏をはじめ、瀬尾正巳氏、坂東嘉子氏、西崎憲志氏など多くの方々のご協力をいただきました。末尾ながら感謝いたします。

平成十八年一月三十一日

徳島県立文書館長 立石 恵 嗣

表紙写真の解説

○白鳥村検地（蔵地・給地）絵図（*1）

○白鳥村検地帳類（*2・*3）

名西郡白鳥村（現石井町）は、江戸時代から明治初期の村の様子が、残された古文書と絵図の両面から過去の実態を追うことのできる村である。田畑一筆ごとを詳細に描いた文久二年（一八六二）の年号がある絵図（検地絵図）（*1）と、全ては揃わないが検地帳（*2・*3）が残されている。数量的にもまたビジュアルにも、村という歴史空間を復原できる。

白鳥村は鮎喰川西部の山際、名東・名西郡界に位置する。絵図の内黄色に塗られているのは山、青い筋は用水路や溜池など、赤い筋は道である。この他きれいに六色に塗り分けられているのは、蜂須賀家の六人の家臣に与えられた給地である。色を着けていない蔵地（藩直轄地）を含めると、白鳥村の田畠が七つに塗り分けられている。さらに細かく見ていくと、ひとつひとつの家や、神社や城跡なども丁寧に書かれており、その情報量は驚くほど豊富である。

また、白鳥村には検地帳に類する資料が二〇冊ある。その内、給人（家臣）ごとに作成された「水帳」という検地帳の一種が四人分残されている。これらはほぼ、給人が給地を拝領した際に白鳥村の肝煎が作成した帳簿の写しであるが、絵図と見比べると、江戸時代を通じて給人が拝領した土地の実態を伺い知ることができる。

羽山久男「徳島藩領の藩政村と地方知行―「文久二年名西郡白鳥村給地絵図」と「白鳥村文書」を中心に―」「徳島地理学会論文集」第七集（二〇〇四年）を参考にしました。



(封紙表) 急々御用

板野郡 岡崎三右衛門
小松新田

以手紙申達候、然者先日

御郡代処より御配有之候新田
并海辺共御絵図御用ニ付、明十六日
朝五ツ半時其地江罷越候条、御用
無指支様了簡可有之候、以上

岡崎三右衛門

四月十五日

小松新田

名主才判人中

▶「岡崎三右衛門書簡」坂東家文書*8

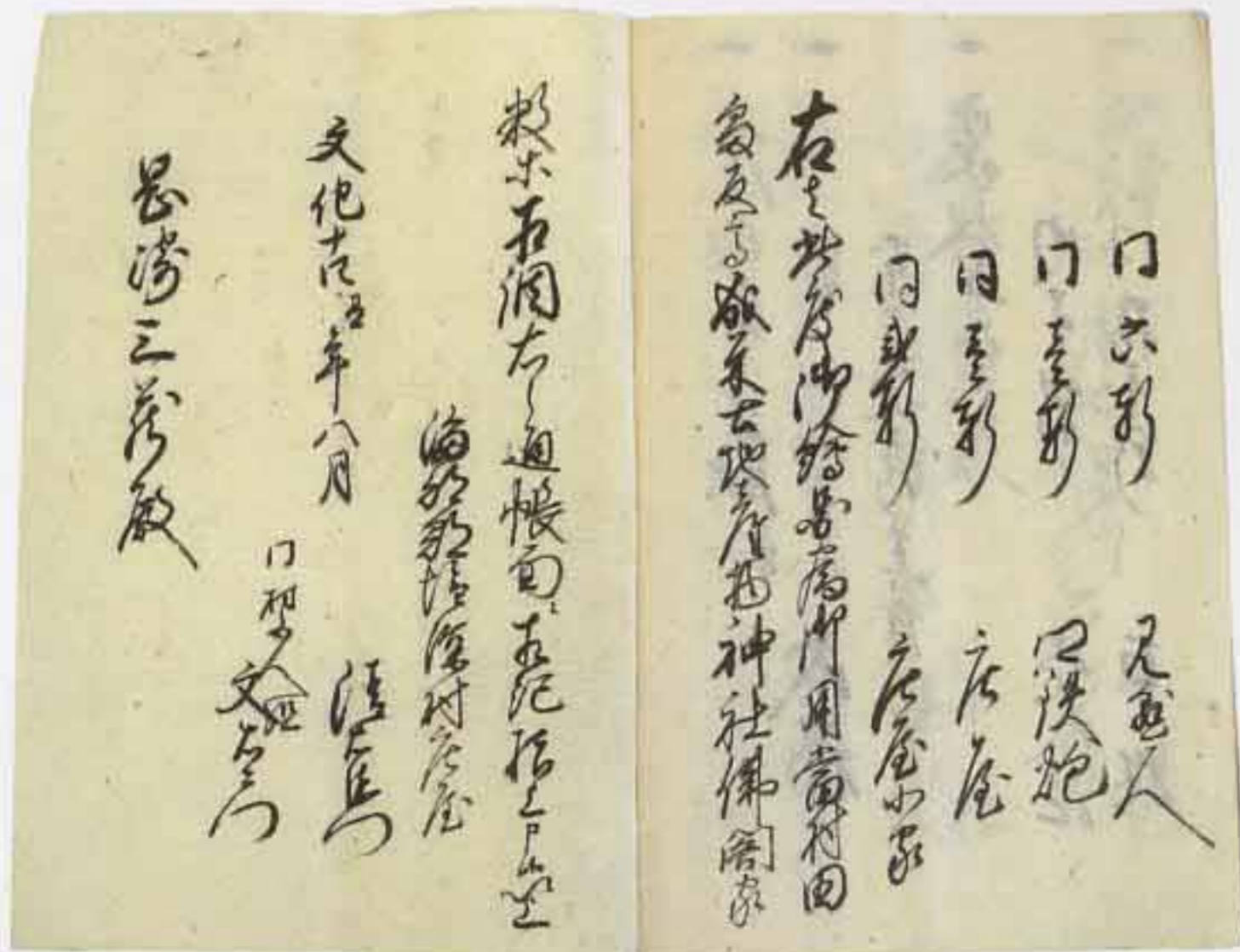
この文書は岡崎三右衛門という人物から板野郡小松新田(現徳島市川内町)名主である坂東家へ出されている。郡代の命令により新田および海辺の絵図作成の出張のために出された書簡である。小松新田は、文政年間以降に造られた新田で、完成後に岡崎三蔵とつながると思われる三右衛門に絵図作成の御用が任せられたと思われる。



(表紙) 文化十四丑年
御国絵図御用ニ付海部郡塩深村田畠反高

其余共相調シ指出帳

八月



(中略)

同六軒

見懸人

同老軒

郷鉄砲

同老軒

庄屋

同式軒

庄屋小家

右者此度御絵図為御用当村田畠反高成米・土地産物・神社仏閣・家数等相調、右之通帳面ニ相記指上申候、以上

海部郡塩深村庄屋

清右衛門

文化十四丑年八月

同村五人組

文右衛門

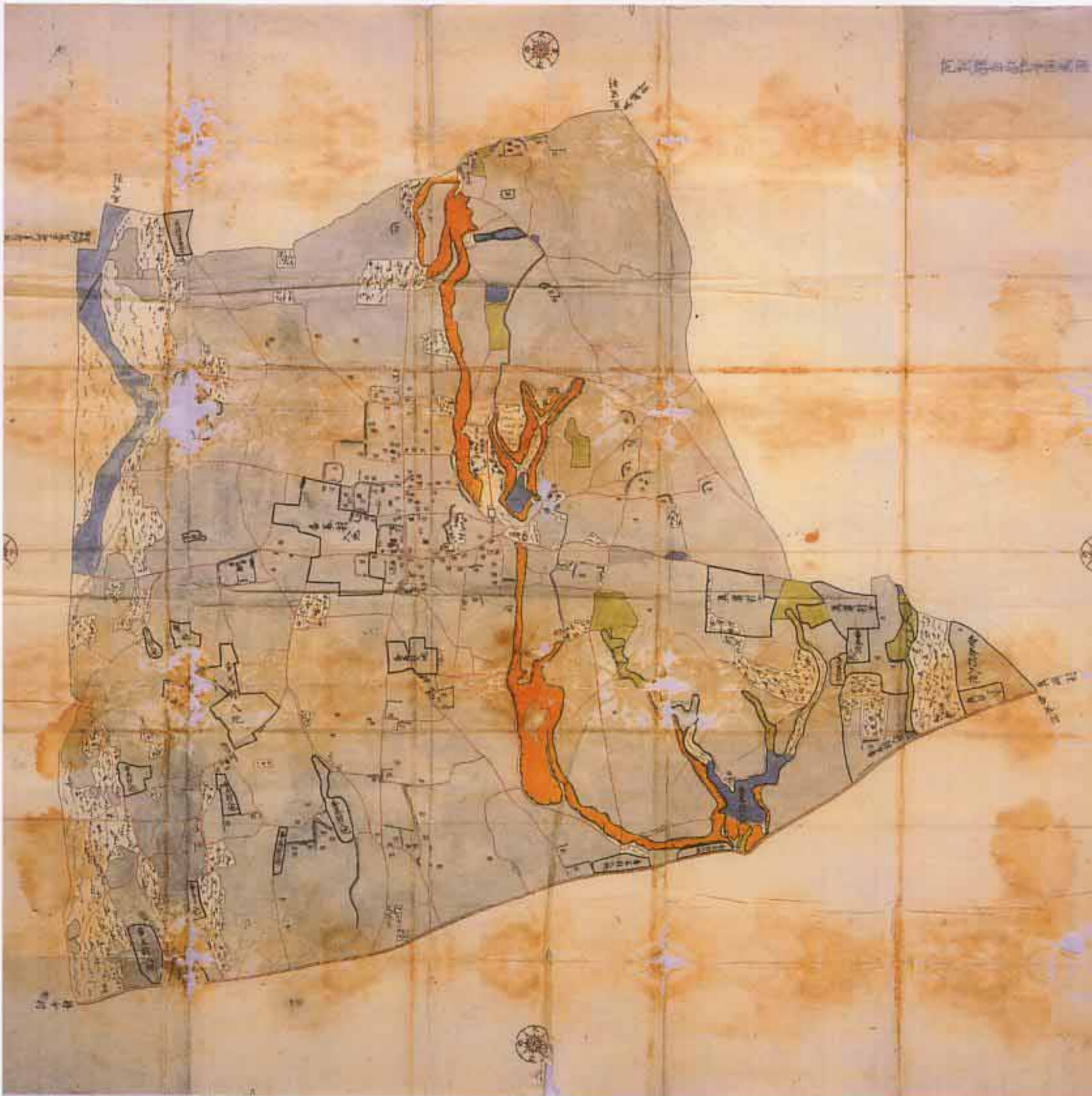
岡崎三蔵殿

▲「御国絵図御用ニ付海部郡塩深村田畠反高其余共相調シ指出帳」岡部家文書*9

文化一四年(一八一七)八月に塩深村の庄屋清右衛門から徳島藩測量方の岡崎三蔵に提出された村の明細を記した帳簿である。分間絵図は、絵図の中に、神社仏閣や家まで書かれた絵図だったため絵図作成前に庄屋によって事前調査が行われた。こうした調査書類は、県内に残る庄屋文書の中に散見される。

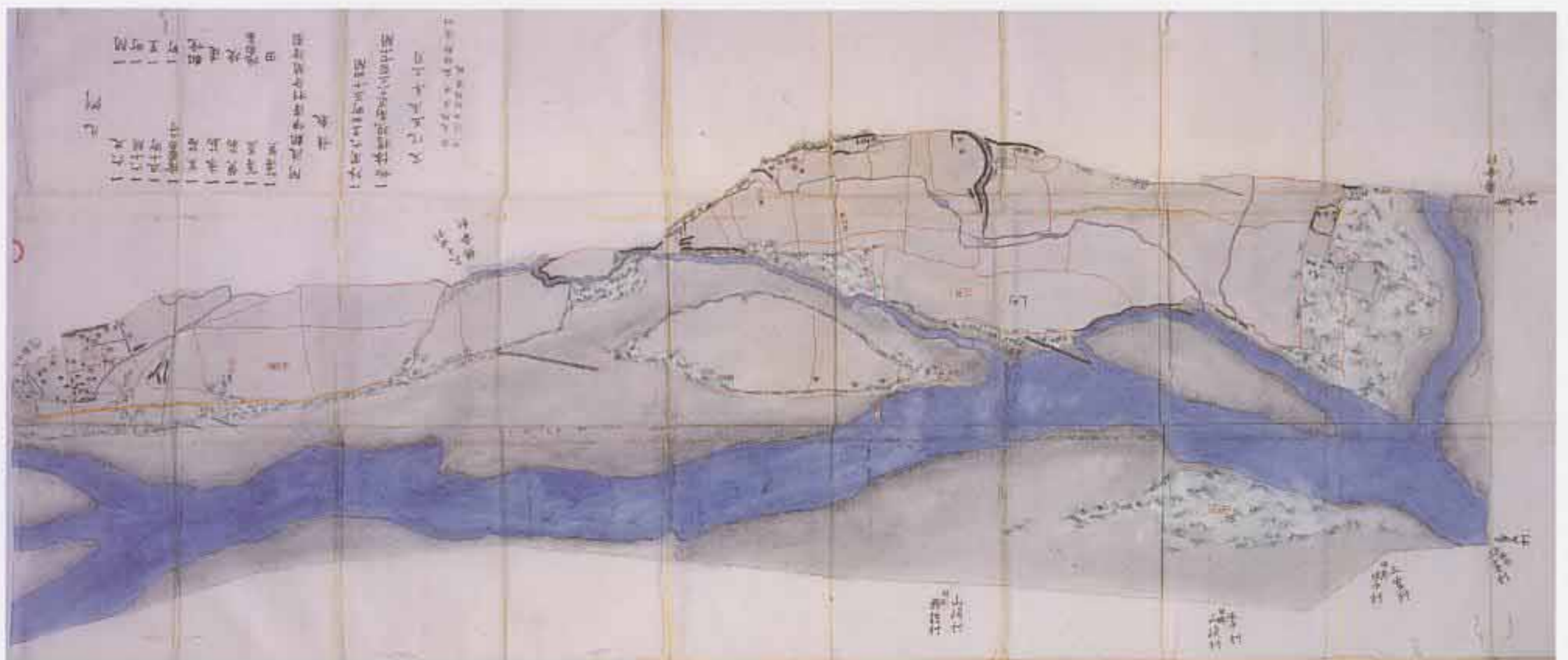
分間絵図

分間絵図は、文化年間以降、徳島藩の測量方御用を勤めた岡崎三蔵を中心とする人々によって作成された絵図である。村全域をくまなく測量し、精密に描かれた阿波の基本図といえる。



▲「市場町分間絵図」阿波市所蔵 * 6

吉野川中流左岸（北岸）の市場町の分間図。もとは隣村である香美村の市場であったという。中央部の若宮神社前の道を中心に町筋が形成されていた様子がわかる。西端は日開谷川、茶色の部分は「上野段」の段丘崖を示す。



▲「伊沢村浜分分間絵図」永井家文書 * 7

吉野川下流左岸（北岸）伊沢村分間図の内、吉野川沿いである「浜分」の分間図。伊沢村は広大な村で、分間絵図は山分・里分とともに三分割されており、吉野川の北岸には水勢を弱めるための「出し」が2ヶ所築かれていることがわかる。

野川市鴨島町知恵島の「検地絵図」です。絵図では北に吉野川、南に江川が流れ、村の中央部を吉野川の旧流路が東西に大きな河原となった様子が描かれています。絵図は実測図でなく見取図で、縮尺は一二〇〇、一六〇〇分の一程度です。絵図からは吉野川の洪水の被害をたびたび受ける氾濫原に位置することや、村の西の「千田須賀」の一部に堤防が築

かかれている以外は、竹藪を自然の防水林としていた景観が読みとれます。元禄二年（一六八九）に勧請されたと伝わる「千田須賀」にある「若宮神社」が描かれておりますが、文化五年（一八〇八）の「阿波郡分間郡図」、天保二年（一八四〇）の「吉野川絵図」と比較しますと、本図の作成時期は元禄期よりはかなり新しいと考えられます。

また、吉野川ぞいの荒地や阿波郡の扇状地等の原野を開墾したといわれる半農半士の「原土」と考えられる「堀北」・「七条」氏等の拝領地である吉野川の流作場（川成地）が絵図で朱色に塗られております（知恵島の瀬尾正巳氏による）。さらに、明治元年では御蔵が七一パーセントを占めておりましたが、「西尾」、「黒部」、「福岡」氏等の藩士の給知がみえます。吉野川ぞいの荒地を開墾す

るために、給知として地割りを計画していた土地があることが、絵図では茶色に塗られていることから読みとれます。

図3は明治一八年（一八八五）作成の縮尺二四〇〇分の一の実測図である「阿波郡知恵島村全図」で、「地籍図」といわれるもので、一筆ごとの地番と当時の土地利用の状況がわかります。図2では吉野川の旧河道でありました字「中須賀」、「北須賀」、「千田須賀北」、「北須賀東」の荒地が図3では畑に開墾されております。また、江川に締め切り堤が築かれたために、字「大北須賀」や、「西知恵島」が本村から切り離された状態になっている様子が見取図と比べると読みとれます。

（徳島地理学会会長）

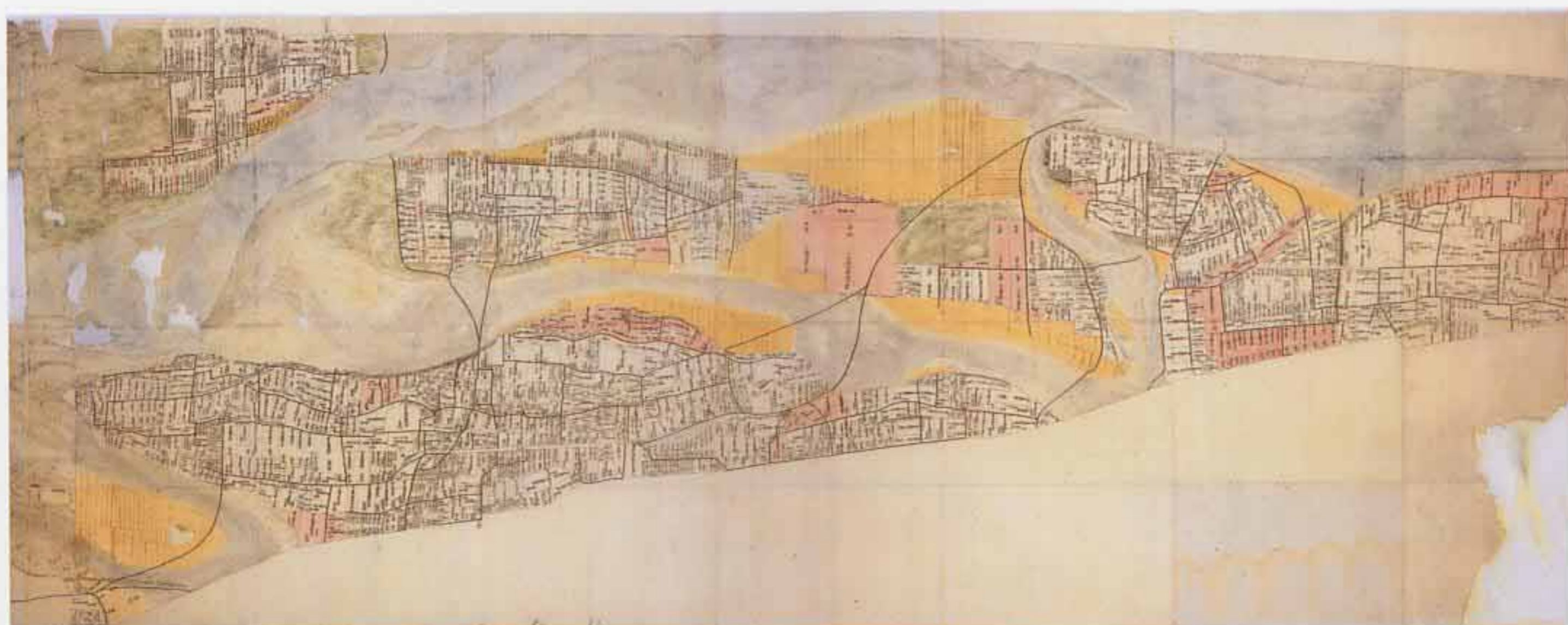


図2 知恵島村検地絵図 * 11

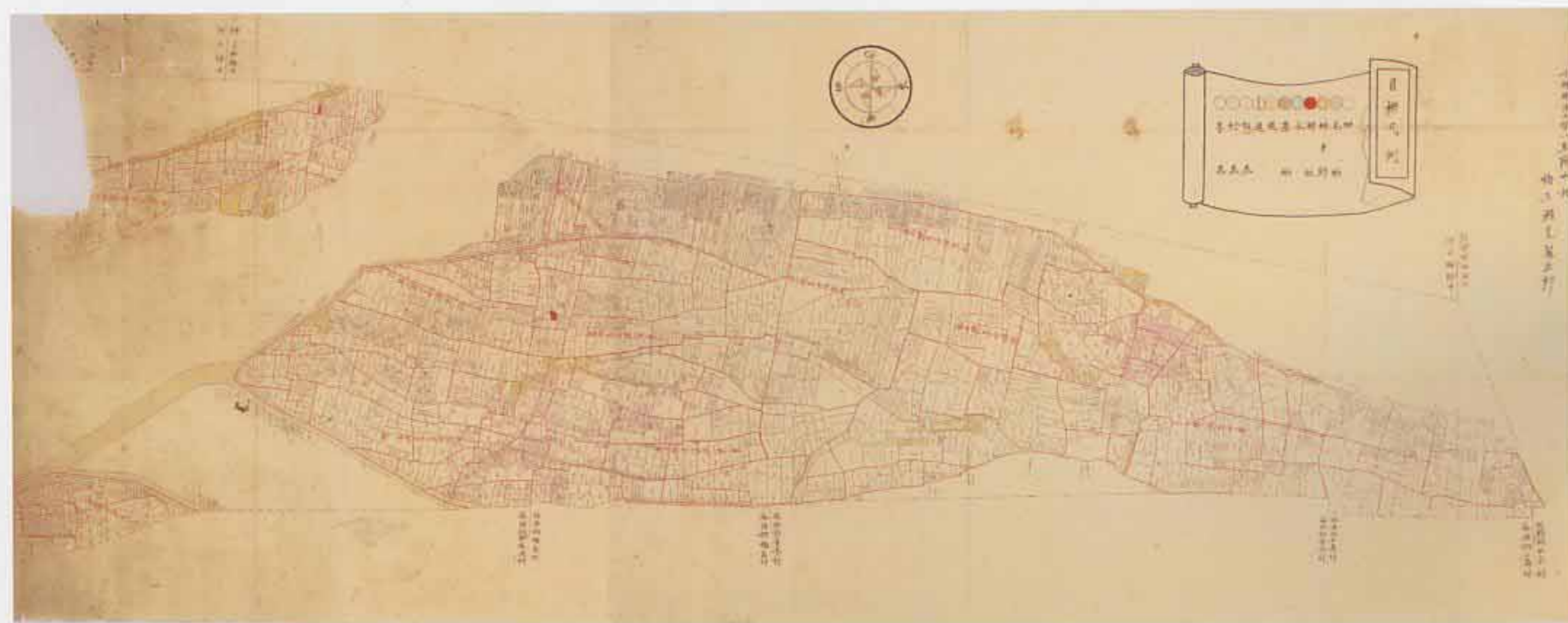


図3 知恵島村全地図 * 12

阿波国内の「検地(蔵地・給地)絵図」

羽山 久男

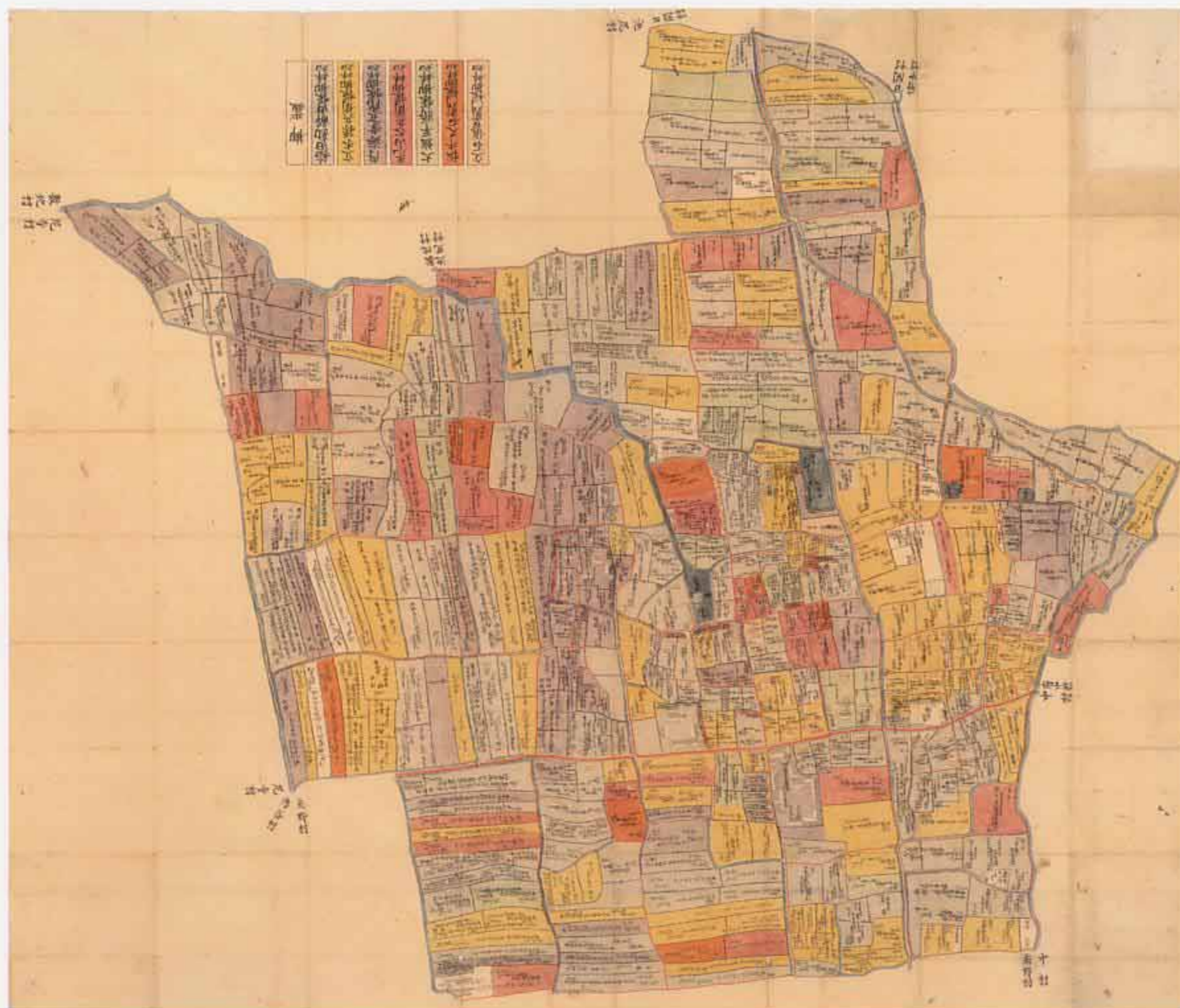


図1 観音寺村検地絵図 * 10

徳島藩では高約五〇石以上の家臣(給人)に藩主から給知(拝領地)を与える地方知行制が明治維新まで存続しました。明治元年(一八六八)に作成された『旧高田領取調帳』に

よりますと、阿波国内の藩政村約五九〇カ村のうち、蔵地(藩領)と給知が相給(混在)している村が、約五七パーセントを占め、また、村の約半数は給人数が五〜一四人もおり、大変複雑な土地の所有状況でした。このため、年貢やその他の税金を農民に正しく割りふりするため、庄屋を中心とする村役人たちは常に村内の耕地や屋敷地について、一筆ごとに蔵地か、または誰の給知かを確認しておく必要がありました。さらに、一筆ごとに田・畑・屋敷地等の地目や品等(上・中・下)、面積(反・畝・歩)、石高(石・斗・升)、誰が耕作しているか(当主人)を検地帳等の上だけでなく、現場で知っておくことが求められました。このような目的のため、徳島藩内の村では田畠などを一筆ごとに描いた精密な絵図である「検地絵図」が村の庄屋を中心に江戸時代の後期に作成されたと考えられています。

す。今までに、阿波国内では一九カ村が関係する約三〇点程度、こうした絵図類があることが確認されています。

図1は幕末期頃の作成とされている名東郡観音寺村(現在の徳島市国府町観音寺)の縮尺六〇〇分の一の「検地絵図」で、精密な実測図です。この絵図から江戸時代後期の村の景観が詳細に分かります。観音寺村は鮎喰川左岸平野にあり、古代の阿波国府跡の一部にあると推定されており、さらに、条里制の遺構を示す短冊状の地割が一部に残っています。また、村の南東部に四国霊場十六番札所の観音寺があり、伊予街道が東西に走っています。

文政四年(一八二二)の村高四八六石の約九七パーセントが七人の給知で占められており、蔵地はわずか三パーセントにすぎません。七人の給知は一筆ごとに鮮やかに色分けされています。高二〇一石で中老という重臣であった稲田勘解由や、高二五八石で江戸大森警護役を勤めた立木孫兵衛等の給知が見えます。絵図には一筆ごとに、農民の名が書かれており、絵図作成時の当主人(年貢の負担者)を示すのかどうかははっきりしない点があります。

図2は阿波郡知恵島村(現在の吉

展 示 品 目 録

No.	標 題	年 代	備 考
分間絵図以前の村絵図(見取図)			
1	美馬郡貞光村絵図	享保15年(1730)	つるぎ町所蔵永井家文書(複製)*4
2	美馬郡南部絵図	年代不詳	◇
3	那賀郡平島組村絵図	享保15年(1730)	西崎家文書(複製)*5
生活に利用された絵図			
4	今川用水絵図	弘化期	秋本家文書
5	神領上山両村組合新用水絵図	安政6年(1859)	大栗家文書(複製)
6	神領村小野名平左衛門願失地御取調之場所絵図	天保7年(1836)	大栗家文書
分間絵図			
7	那賀郡立江村分間絵図	文化期	小松島市所蔵文書
8	阿波郡市場町分間絵図	文化期	阿波市所蔵文書(複製)*6
9	阿波郡香美村分間絵図	文化10年(1813)	◇
10	阿波郡伊沢村分間絵図(在所分)	文政期	永井家文書(複製)*7
11	板野郡笹木野村分間絵図	文化8年(1811)	松茂町歴史民俗資料館・人形浄瑠璃芝居資料館所蔵 笹木野春日神社文書(複製)
12	板野郡笹木野村絵図為御用被為仰付諸品指出帳	文化8年(1811)	◇ (原本)
13	申上覚(御国図御用ニ付地名調査達)	文化10年(1813)	◇
14	覚(絵図方岡崎三蔵賄料明細)	文化8年(1811)	◇
15	御国絵図御用ニ付海部郡塩深村田畠反高其余共相調シ指出帳	文化14年(1817)	岡部家文書(複製)*9
16	岡崎三右衛門(書簡・絵図御用の件)	文化期	坂東家文書*8
17	海部郡穴喰分間絵図	文化期	多田家文書(複製)
18	名西郡分間絵図	文化9年(1812)	林家文書(複製)
19	阿波国絵図(分間図)	江戸末期	谷家文書
検地絵図		検地絵図	
20	日開村検地絵図	文久3年(1863)	榎本家文書
21	観音寺村検地絵図	江戸末期	坂東家文書*10
22	知恵島村検地絵図	江戸後期	瀬尾家文書*11
23	香美村検地絵図	江戸後期	阿波市所蔵文書(複製)
24	白鳥村検地絵図	文久2年(1862)	徳島県立博物館所蔵(複製)*1
25	名西郡白鳥村新開御検地帳	享保3年(1718)	白鳥村文書*2
26	名西郡白鳥村藪開御検地帳	宝永2年(1705)	◇ *3
27	名西郡白鳥村平瀬所兵衛様水帳写	寛保2年(1742)	◇
その他			
28	阿波郡知恵島村全地図	明治18年(1885)	瀬尾家文書*12

※展示物保護のため、展示期間中に入れ替えることがあります。



観音寺(徳島市国府町 16番札所)付近
観音寺村検地絵図(坂東家文書)

編集・発行 徳島県立文書館

〒770-8070 徳島市八万町向寺山
電話 〇八八(六六八)三七〇〇

印刷 ナカガワ・アト(株)

〒779-3503 徳島県美馬市脇町大字榑尻字宮南三上
電話 〇八八三(五二)一六四三